

# 施工フロー

## 1年生雑草主体

年内に新しい芽が出て成長し、開花、種子を放出した後枯れる雑草。種子を飛ばして増殖する。

- ・エノコログサ・イナムギ
- ・スズメノカタビラ・ブタグサ
- ・スズメノテッポウ・ノゲシ
- ・メヒシバ・オヒシバ など

## 2年生雑草主体

冬に枯れるが、地下茎が生き残り、翌年も目を出す雑草。1年生と同様、種子で増殖するが、地下茎で増殖するものもある。

- ・スギナ・セイタカアワダチソウ
- ・ヨモギ・イヌタデ
- ・ギンギシ・クズ
- ・イタドリ など

## 多年生イネ科雑草主体

先端が細く、貫通力の高い雑草が多い。その貫通力はアスファルトを裂くほど。生命力が強く、種子と地下茎の両方で増殖する。駆除が困難な雑草の一つ。

- ・チガヤ・ススキ・チカラシバ
- ・ヨシ・カモガヤ・スズメノヒエ など

まばらに生えている場合

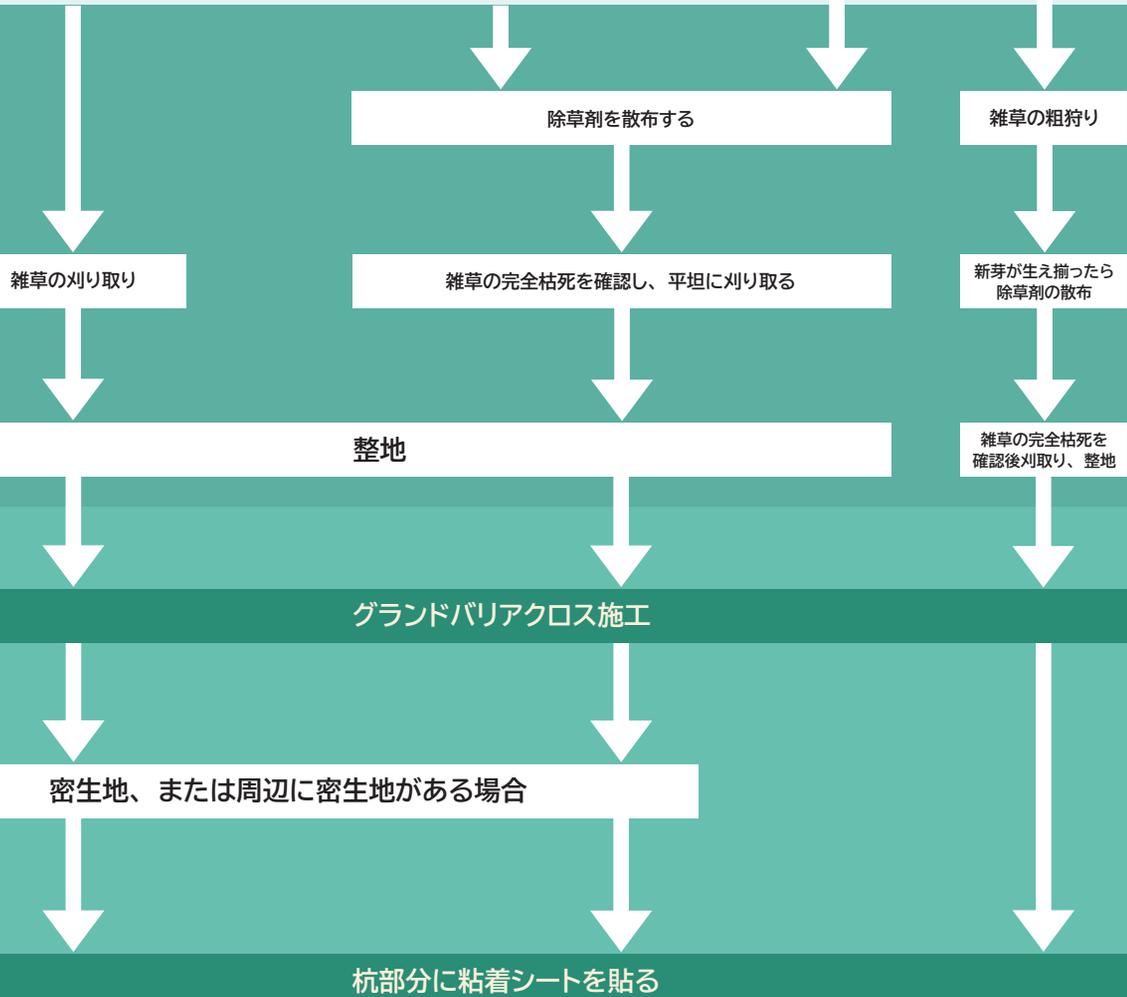
密生している場合

### 施工地雑草種類確認

### 雑草の駆除

### シート施工

### メンテナンス



飛来種や地下茎の侵入等で雑草が生えることがあります。その場合は、発生初期段階で抜き取り等のメンテナンスを実施してください。定期的なメンテナンスを行うことで雑草の数は減少していきます。

生えた雑草を刈り取り、その上にさらにグラウンドバリアクロスを重ねて施工することも効果的です。



## ご使用の注意事項

■グランドバリアクロスは、99.9%以上の遮光性能を持っています。

日光を遮ることでシート下雑草の光合成を妨げ、生長のリスクを低減します。

■多年生雑草（この内、特に繁殖力の強い強雑草）は地下茎に養分を保持するため、生長を完全に防ぐことはできません。抜根処理、土壌改質や除草剤の散布と併用してのご使用を推奨します。

■周辺に多年生雑草の密生地がある場合、地下茎により雑草が侵入してくる場合がありますので、土地の防根処理と併用していただくことを推奨します。

■グランドバリアクロスを一部の範囲のみ施工し、周辺に雑草が生い茂る環境下では、飛来種や地下茎の影響で防草効果を十分に発揮しない恐れがあります。

■シート上に飛来した種子が根付く場合があります。農耕地等の肥沃な土地に施工される場合は特に注意が必要です。

■杭周辺は光が漏れやすく、凹みに土や飛来種が溜まりやすいため、杭を必要以上に使用すると雑草は発生しやすくなります。杭打ち部に粘着シートを併用していただくことで、雑草リスクを低減することができます。

■強風等でシート状に砂や土が溜まった場合や雑草の種子が溜まっている場合、飛来種の発芽を促進する恐れがあります。

■グランドバリアクロスは織物タイプの防草シートですので、施工する際、引っ張り過ぎると折り目に隙間が空いて光が漏れ、防草効果を十分に発揮しない場合があります。

■タバコ火等によりシートに穴が空くと、そこから光が漏れ、雑草が生える場合があります。また、高温のものを近づけるとシートの変形や収縮に繋がりますのでご注意ください。

■シート施工時に刈り取った草の株や茎がグランドバリアクロスを貫通し、隙間が空くと、そこから光が漏れ、防草効果を十分に発揮しない場合があります。施工前に雑草を平坦に刈り取ることを推奨します。

■シート状に砂利を施工（5cm~10cm）することでシートの耐用年数を伸ばすことができます。砂利には防草石を使用することで、雑草をはえにくくすることができます。

■草刈りの最適時期は主要雑草の種子をつける前（成長時期の初期）です。草刈りによって種子が大量に落ちた場合、雑草が生えやすくなりますのでご注意ください。

■施工参照の除草剤は茎葉吸収移行性の防草剤を想定しています。散布は除草剤の使用方法を参照に実施してください。

■竹や笹をグランドバリアクロスで防ぐことはできません。